

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は、1983 年生まれで 2007 年に株式会社ドーコンへ入社しました。入社してから道路計画や事業認定等、自身がやりたいと思った分野を経験させてもらい、2015 年(平成 27 年度)に 5 回目の受験で技術士(建設部門)を取得することができました。4 回目の受験まではどこか本気になっていませんでしたが、前号で執筆された高橋さんの合格に刺激を受け、必死に勉強したことを今でも忘れません(笑)。技術士登録後、当時の上司に誘われて北海道本部青年技術士交流委員会(青技交)に入会し現在に至っています。

そんな青技交での活動を振り返ると、入会 2 年目から幹事長を 2 期 4 年、その後副委員長を 1 期 2 年務められてもらいました。テクニカルツアーや講演会、小学校での技術士紹介など様々なイベントの企画・運営を幹事メンバーと協力しながら物事を進める中で、自身のスキルアップにつながったと感じています。なかでも、全国各地域の若手技術士との交流がとても新鮮でした。北海道における青技交メンバーは建設分野の方が圧倒的に多いと思いますが、全国では逆に少数であることに非常に驚いたことを今でも鮮明に覚えています。

私も今年で 40 歳になるため青技交退会まであと 5 年です。今までの 6 年間は自身が発展させてもらったため、これからの 5 年間は青技交の発展に少しでも貢献出来たらと思いながら活動していきたいと思っています。残り少ない青技交活動ですが、楽しみながらマイペースに活動していきますので、北海道本部の皆様、引き続きよろしくお願い致します。

須田 徹央(すだ てつひろ)

●建設部門(道路)

勤務先

株式会社ドーコン



→次号は、長内克真さん(農業部門)

私は 1964 年生まれで、1989 年の平成の始まりとともに北海道庁に入庁し、数年の行政経験を経たのち独立行政法人化前の道立林産試験場の勤務となり現在に至ります。眼前の業務に無我夢中に取り組んでいるうちに 30 数年が経過し、私も大ベテランの範ちゅうに入る立場となっています。

林産試験場では木チップ舗装や林産業の経営評価などの研究もしてましたが、研究の企画や管理、研究成果の普及などのいわゆる企画・普及畑での業務が長く、現在もこのような業務の取りまとめ役として業務に従事しています。

私の技術士挑戦は 2016 年からで、2018 年に技術士登録を受けています。受験した当時は森林部門の林産を選択する受験者が少なく、技術士試験制度の改正を控えてこのことが懸念されていました。森林関連産業の出口として林産業は重要と認識していたので、自分が少しでも関連の技術士会の役に立つものならと森林部門(林産)を受験したのが技術士となったきっかけです。

私の職場は、一般企業や団体、大学や他の試験研究機関と、共同研究や委託を受けての研究を実施しているほか、行政も含めた様々な客体から技術相談を受けたり技術指導を行ったりしています。業務においては、守秘義務を徹底することは当然のこと、公設試験研究機関として公共の利益など公益性の観点から研究内容等を判断する場面が少なからずあります。技術士としてまず頭に叩き込む 3 義務 2 責務と技術士倫理綱領の内容は、私には日常の業務遂行上の規範ともなっており、技術士の枠を超えて技術者としての考えの支柱となっています。常に規範を念頭に、これからも研鑽を続けてまいります。

渡辺 誠二(わたなべ せいじ)

●森林部門(林産)

勤務先

(地独)北海道立総合研究機構
林産試験場



→次号は、松本和茂さん(森林部門)